

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-222793

(43)Date of publication of application : 08.08.2003

(51)Int.Cl.

G02B 13/04

(21)Application number : 2002-019737

(71)Applicant : FUJI PHOTO OPTICAL CO LTD

(22)Date of filing : 29.01.2002

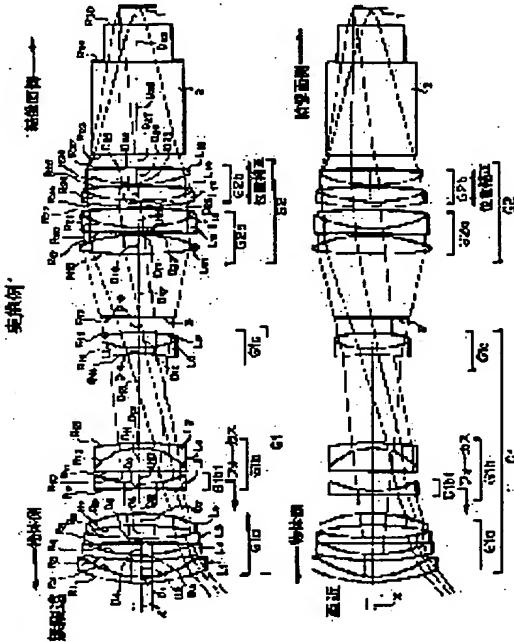
(72)Inventor : TAKATSUKI AKIKO

(54) IMAGING LENS AND IMAGING APPARATUS

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To perform image angle broadening while reducing an effective aperture of a front lens group in an imaging lens by sequentially arranging a plurality of negative lenses and a positive meniscus lens directed at a convex surface to one focusing surface side from an object side at a most object side.

SOLUTION: A negative first lens group G1, a diaphragm 3 and a positive second lens group G2 are arranged. The group G1 has a negative G1a in which a plurality of negative lenses and one positive meniscus lens sequentially arranged in this order from the object side, a negative G1b in which a single negative lens and positive, negative cemented lenses and a G1c having negative and positive doublets. When a focus is moved from an infinity object point to a close object point, the single negative lens in the G1b is moved along the optical axis X to the object side. The positive lens made of an anomalous dispersion material is arranged in the G2, and the negative lens made of the anomalous dispersion material is arranged in the G1, and the chromatic aberration is well corrected without increasing an amount of change of a back focus in association with a temperature change.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.01.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2003-222793  
(P2003-222793A)

(43) 公開日 平成15年8月8日 (2003.8.8)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

G 0 2 B 13/04

識別記号

F I

C 0 2 B 13/04

デマコード<sup>8</sup> (参考)

D 2 H 0 8 7

審査請求 未請求 請求項の数 5 O.L. (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2002-19737 (P2002-19737)

(22) 出願日 平成14年1月29日 (2002.1.29)

(71) 出願人 000005430

富士写真光機株式会社

埼玉県さいたま市北区植竹町1丁目324番地

(72) 発明者 高附 明子

埼玉県さいたま市植竹町1丁目324番地

富士写真光機株式会社内

(74) 代理人 100097984

弁理士 川野 宏

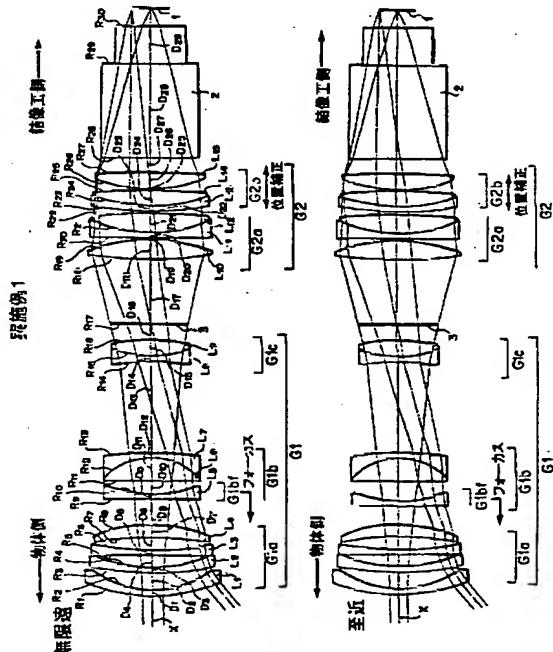
最終頁に統ぐ

(54) 【発明の名称】 撮像レンズおよび撮像装置

(57) 【要約】

【目的】 最も物体側において、複数枚の負レンズと1枚の結像面側に凸面を向けた正メニスカスレンズを物体側からこの順に配列することにより、撮像レンズにおいて前玉有効径を小さなもとしつつ広画角化を達成する。

【構成】 負の第1レンズ群G<sub>1</sub>、絞り3、正の第2レンズ群G<sub>2</sub>が配列されてなる。G<sub>1</sub>は、物体側から複数枚の負レンズと1枚の正メニスカスレンズをこの順に配列された負のG<sub>1a</sub>、単独の負レンズおよび正、負の接合レンズを備えた負のG<sub>1b</sub>、および負、正の接合レンズを備えたG<sub>1c</sub>からなる。無限遠物点から至近物点にフォーカス移動する際には、G<sub>1b</sub>中の単独の負レンズを光軸Xに沿って物体側に移動させて行なう。また、G<sub>2</sub>中には異常分散材料よりなる正レンズが、G<sub>1</sub>中には異常分散材料よりなる負レンズが各々配され、温度変化に伴うバックフォーカスの変化量を大きくすることなく色収差を良好に補正する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 物体側より順に、全体として負の屈折力を有する第1レンズ群、絞り、および全体として正の屈折力を有する第2レンズ群が配列されてなる撮像レンズにおいて、

前記第1レンズ群が、物体側から順に、最も物体側に配された複数枚の負レンズと結像面側に凸面を向けた1枚の正メニスカスレンズを有する第1aレンズ群、最も物体側に単独の負レンズを配された全体として負の屈折力を有する第1bレンズ群、および少なくとも1組の正レンズおよび負レンズを備えた第1cレンズ群を配列してなることを特徴とする撮像レンズ。

【請求項2】 前記単独の負レンズが下記条件式(1)を満足するように構成され、無限遠物点から至近物点にフォーカシングする際には、前記単独の負レンズを物体側に繰り出して行うことを特徴とする請求項1記載の撮像レンズ。

$$0.05 < f_n / f_{1b} < 0.50 \quad \dots \dots \quad (1)$$

ただし、

$f_n$  : フォーカシングする際に移動する単独の負レンズの焦点距離

$f_{1b}$  : 第1bレンズ群全体の焦点距離

【請求項3】 前記第2レンズ群が、少なくとも1枚の異常分散性ガラスからなる正レンズを含むとともに、前記第1レンズ群が、下記条件式(2)を満足する負レンズを少なくとも1枚含むことを特徴とする請求項1記載の撮像レンズ。

$$d_n / d_t < -0.000005 \quad \dots \dots \quad (2)$$

ただし、

$d_n / d_t$  : 温度による屈折率の変化(°C)

【請求項4】 前記第2レンズ群は、物体側から順に、第2aレンズ群および第2bレンズ群を配列されてなり、前記第1レンズ群および前記第2aレンズ群の合成焦点距離がほぼ無限大となるように構成し、前記第2bレンズ群を光軸に沿って移動させることによりバックフォーカス長を調整することを特徴とする請求項1から3のうちいずれか1項記載の撮像レンズ。

【請求項5】 請求項1から4のうちいずれか1項記載の撮像レンズを筐体内に収納してなることを特徴とする撮像装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はテレビカメラに適した固定焦点の撮像レンズに関し、特に、2群構成で長いバックフォーカスを有する広角な撮像レンズおよび撮像装置に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】近年、例えば、シネマ用の映像を撮像し得る、いわゆるEシネマ用カメラと称されるテレビ放送用撮像カメラが知られている。

【0003】このEシネマ用カメラに用いられる撮像レンズは、通常のテレビ放送用撮像カメラに比して、さらなる広角化および結像面全域における高性能化が要求される。また、このようなEシネマ用カメラにおいて固体撮像素子を用いる場合には、通常のテレビ放送用撮像カメラと同様に、撮像レンズと固体撮像素子との間にローパスフィルタや赤外カットフィルタが配設されるため、撮像レンズのバックフォーカスを長くする必要がある。さらに、各原色光毎に撮像素子を用いたいわゆる多板式のものにおいては、各固体撮像素子の前段において色分解プリズムが配設されるため、撮像レンズのバックフォーカスはさらに長く設定する必要がある。

【0004】一方、上述したようなテレビ放送用撮像カメラにおいて、フォーカシングに伴う諸収差変動や画角変動を抑制するためインナーフォーカス方式を採用することが好ましい。

【0005】このような各種の要求を満足させたものとして本出願人が既に開示している、特開平4-118612号公報に記載されたものが知られている。この公報記載の技術は、レトロフォーカス型の高性能撮像レンズであって、画角を90°以上としても十分に良好な性能を得ることが可能である。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述した公報記載の撮像レンズにおいては、前群を構成するレンズ(前玉)の有効系を大幅に小さくすることが難しく、最近の撮像カメラのコンパクト化という要請に対して必ずしも満足し得るものとはなっていなかった。

【0007】例えば、同公報に記載の第1実施例の撮像レンズにおいては、焦点距離が5.0mm、Fナンバが1.8、画角95.5度の条件下(イメージサークルΦ11.0mm)において前玉有効径がΦ95.0mmとなっており、これを半分程度のサイズにしたいという要求があった。

【0008】本発明はこのような事情に鑑みなされたもので、レトロフォーカス型の高性能撮像レンズにおいて、前玉有効径を大幅に小さくすることが可能で、撮像カメラのコンパクト化を図りうる撮像レンズおよび撮像装置を提供することを第1の目的とするものである。

【0009】一方、上述したような撮像カメラ用撮像レンズにおいて、フォーカシングに伴なう諸収差変動や画角変動を抑制するためインナーフォーカス方式を採用するものが知られている。

【0010】この種の広角な撮像レンズにおいてインナーフォーカス方式を採用したものとしては、上記公報記載のもののほか、特開2000-131606号公報に記載された撮像レンズが知られている。この公報記載のものは、2群構成とされ、前群を構成する2つのレンズ群のうち結像面側の正レンズ群(第1-2群)が前後に移動することによってフォーカシングを行なうように構成されている。

【0011】しかしながら、この公報記載の撮像レンズ

は、全系の焦点距離に対するバックフォーカスの比（レトロ比）が2.6程度であり、必ずしもバックフォーカスが十分とはなっていなかった。

【0012】また、前述した特開平4-118612号公報に記載されたものにおいては、前群を構成する2つのレンズ群のうち結像面側のレンズ群を移動させるとともに後群をも移動させることによってフォーカシングを行なうよう構成されており、フォーカシングのためのメカ的機構が複雑化する。さらに、フォーカシングに伴なう画角の変動が少なくないことから、前述したEシネマ用カメラ等に搭載することが必ずしも適切とはいえない場合も生じる。

【0013】本発明はこのような事情にも鑑みなされたもので、上記第1の目的に加え、特にEシネマ用等のテレビ放送用撮像カメラに用いられる、インナーフォーカス方式を採用した撮像レンズにおいて、フォーカシングのメカ的機構を複雑にすることなく、またフォーカシングに伴なう画角変動を大きくすることなくフォーカシングに伴なう諸収差の変動を抑制することができ、さらに、バックフォーカスを十分に確保することができる撮像レンズおよび撮像装置を提供することを目的とするものである。

【0014】さらに、上述した広角な撮像レンズにおいては、色収差を良好に補正したいという要請があり、この要請に対応したものとして、第2レンズ群中の正レンズに異常分散性ガラスを用いたものが知られている。

【0015】しかしながら、異常分散性ガラスは温度変化に応じた屈折率の変化が大きいという特性を有する。したがって、第2レンズ群中の正レンズに異常分散性ガラスを用いたものによっては、温度変化に伴うバックフォーカスの変化量が大きくなってしまうという問題があった。

【0016】本発明はこのような事情にも鑑みなされたもので、上記第1の目的に加え、レトロフォーカス型の高性能撮像レンズにおいて、温度変化に伴うバックフォーカスの変化量を大きくすることなく色収差を良好に補正し得る撮像レンズおよび撮像装置を提供することを目的とするものである。

#### 【0017】

【課題を解決するための手段】本発明による撮像レンズは、物体側より順に、全体として負の屈折力を有する第1レンズ群、絞り、および全体として正の屈折力を有する第2レンズ群が配列されてなる撮像レンズにおいて、前記第1レンズ群が、物体側から順に、最も物体側に配された複数枚の負レンズと結像面側に凸面を向けた1枚の正メニスカスレンズを有する第1aレンズ群、最も物体側に単独の負レンズを配された全体として負の屈折力を有する第1bレンズ群、および少なくとも1組の正レンズおよび負レンズを備えた第1cレンズ群を配列してなることを特徴とするものである。

【0018】また、前記単独の負レンズが下記条件式(1)を満足するように構成され、無限遠物点から至近物点にフォーカシングする際には、前記単独の負レンズを物体側に繰り出して行なうことを特徴とするものである。

$$0.05 < f_n / f_{1b} < 0.50 \quad \dots \dots \dots \quad (1)$$

ただし、

$f_n$ ：フォーカシングする際に移動する単独の負レンズの焦点距離

$f_{1b}$ ：第1bレンズ群全体の焦点距離

【0019】また、前記第2レンズ群が、少なくとも1枚の異常分散性ガラスからなる正レンズを含むとともに、前記第1レンズ群が、下記条件式(1)を満足する負レンズを少なくとも1枚含むことを特徴とするものである。

$$d_n / d_t < -0.000005 \quad \dots \dots \dots \quad (2)$$

ただし、

$d_n / d_t$ ：温度による屈折率の変化(1/°C)

【0020】また、前記第2レンズ群が、物体側から順に、第2aレンズ群および第2bレンズ群を配列されたり、前記第1レンズ群および前記第2aレンズ群の合成焦点距離がほぼ無限大となるように構成し、前記第2bレンズ群を光軸に沿って移動させることによりバックフォーカス長を調整することが望ましい。

【0021】また、本発明による撮像装置は、上述したいずれかの撮像レンズを筐体内に収納してなることを特徴とするものである。

#### 【0022】

【発明の実施の形態】以下図面を参照して本発明の実施形態について説明する。図1には本発明の実施形態に係る撮像レンズが示されている(後述する実施例1のレンズ構成が代表して示されている)。

【0023】この撮像レンズは、例えば、Eシネマ用の撮像カメラの撮像レンズとして、カメラ筐体内に収容されるもので、物体側より順に、全体として負の屈折力を有する第1レンズ群G<sub>1</sub>、絞り3と該絞り3の結像面側に配置された、全体として正の屈折力を有する第2レンズ群G<sub>2</sub>が配列されてなるレトロフォーカスタイプの撮像レンズである。また、前記第1レンズ群G<sub>1</sub>は、物体側から複数枚の負レンズと1枚の正メニスカスレンズをこの順に配列され全体として負の屈折力を有する第1aレンズ群G<sub>1a</sub>、単独の負レンズと、少なくとも1組の正レンズおよび負レンズからなる接合レンズを有し全体として負の屈折力を有する第1bレンズ群G<sub>1b</sub>、少なくとも1組の正レンズおよび負レンズからなる接合レンズを備えた第1cレンズ群G<sub>1c</sub>からなるように構成されている。この撮像レンズに入射した光束は、3色分解光学系(ローパスフィルタ等を含む)2を介して固体撮像素子の結像面1上に結像される。

【0024】このように、本実施形態の撮像レンズにお

いては、第1aレンズ群G<sub>1a</sub>を物体側から複数枚(例えば3枚とする)の負レンズと1枚の正メニスカスレンズをこの順に配列するように構成しており、光線軌跡を結像面側からみた場合、1枚の正メニスカスレンズ(図1の撮像レンズではL<sub>4</sub>)によって一旦絞り込まれ、次に複数枚の負レンズ(図1の撮像レンズではL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>、L<sub>3</sub>)によって大きく発散せしめられる状態となるため、前玉有効径を小さなものとしつつ広画角化を達成することができ、レンズ系全体のコンパクト化を達成することができる。

【0025】また、この撮像レンズは、無限遠物点から至近物点にフォーカシングする際には、第1bレンズ群G<sub>1b</sub>の単独の負レンズG<sub>1b</sub>fを光軸Xに沿って物体側に移動させて行い、至近物点から無限遠物点にフォーカシングする際には、その単独の負レンズG<sub>1b</sub>fを光軸Xに沿って結像面側に移動させて行なうインナーフォーカスタイルとされており、第1bレンズ群G<sub>1b</sub>の単独の負レンズG<sub>1b</sub>fのみの移動によりフォーカシングを行なうように構成されているのでフォーカシングを行なうための駆動力を小さいものとすることができます、メカ的機構も簡易となり、製造コストも廉価となる。また、フォーカシングを行なう際の、物体距離の変化に伴なう像面特性が向上するとともに、フォーカシングに伴なう画角変動を抑制することができる。

【0026】また、上記単独の負レンズG<sub>1b</sub>fは下記条件式(1)を満足するように構成されている。

$$0.05 < f_n / f_{1b} < 0.50 \quad \dots \dots \dots (1)$$

ただし、

f<sub>n</sub>：フォーカシングする際に移動する単独の負レンズG<sub>1b</sub>fの焦点距離

f<sub>1b</sub>：第1bレンズ群全体の焦点距離

【0027】このように、本実施形態の撮像レンズにおいては、フォーカシングする際に移動する単独の負レンズの焦点距離を規定しており、これによりフォーカシングに伴うタンジェンシャル像面の変動およびコマ収差の増大をいずれも抑制することができる。すなわち、条件式(1)の上限を上回ると、フォーカシングに伴うタンジェンシャル像面の変動が大きくなり、一方、その下限を下回ると下側光線のコマ収差が増大する。

【0028】さらに、本実施形態の撮像レンズにおいては、前記第2レンズ群G<sub>2</sub>中に少なくとも1枚の異常分散性ガラスからなる正レンズを含むとともに、前記第1レンズ群G<sub>1</sub>中に、下記条件式(2)を満足する負レンズを少なくとも1枚含むように構成されている。

$$d_n / d_t < -0.000005 \quad \dots \dots \dots (2)$$

ただし、

d<sub>n</sub> / d<sub>t</sub>：温度による屈折率の変化(°C)

【0029】このように構成することにより、前記第1レンズ群G<sub>1</sub>中に配設された、異常分散性ガラスにより形成される負レンズにおいて、温度変化に伴うバックフ

ォーカスの変化を生ぜしめ、前記第2レンズ群G<sub>2</sub>中の異常分散性ガラスからなる正レンズにおいて生じる、上記バックフォーカスの変化方向とは逆方向の、温度変化に伴うバックフォーカスの変化を相殺することができるので、温度変化に伴うバックフォーカスの変化量を大きくすることなく色収差を良好に補正することができる。

【0030】上記条件式(2)の上限を上回ると上述したバックフォーカスの変化の相殺が不十分となる。

【0031】また、前記第2レンズ群G<sub>2</sub>は、物体側から順に、第2aレンズ群G<sub>2a</sub>および第2bレンズ群G<sub>2b</sub>を配列されてなり、前記第1レンズ群G<sub>1</sub>、前記第2aレンズ群G<sub>2a</sub>の合成焦点距離がほぼ無限大となるように構成され、前記第2bレンズ群G<sub>2b</sub>を光軸Xに沿って移動させることによりバックフォーカス長を調整するように構成されている。

【0032】このように構成することにより、撮像レンズをカメラ本体に接続した際に生じる光軸方向の機械的誤差を、機械的に複雑にすることなく容易に調整することが可能となる。

【0033】

【実施例】<実施例1>この実施例1に係る撮像レンズは、前述したように図1に示す如き構成とされている。

【0034】以下、詳細なレンズ構成を述べる。各レンズ群および各レンズは物体側より順にレンズ番号が増加するようになっている。

【0035】第1aレンズ群G<sub>1a</sub>は、凹面を結像面側に向けた負のメニスカスレンズからなる第1レンズL<sub>1</sub>および第2レンズL<sub>2</sub>、両凹レンズからなる第3レンズL<sub>3</sub>ならびに凸面を結像面側に向けた正のメニスカスレンズからなる第4レンズL<sub>4</sub>からなる。

【0036】また、第1bレンズ群G<sub>1b</sub>はフォーカス用レンズG<sub>1b</sub>fを含んでおり、強い曲率の面を結像面側に向けた、フォーカス用レンズG<sub>1b</sub>fとして機能する両凹レンズからなる第5レンズL<sub>5</sub>、ならびに強い曲率の面を結像面側に向けた両凸レンズからなる第6レンズL<sub>6</sub>および凹面を物体側に向けた負のメニスカスレンズからなる第7レンズL<sub>7</sub>の接合レンズからなる。

【0037】また、第1cレンズ群G<sub>1c</sub>は、強い曲率の面を結像面側に向けた両凹レンズからなる第8レンズL<sub>8</sub>および強い曲率の面を物体側に向けた両凸レンズからなる第9レンズL<sub>9</sub>の接合レンズからなる。

【0038】また、第2aレンズ群G<sub>2a</sub>は、両凸レンズからなる第10レンズL<sub>10</sub>、ならびに凹面を結像面側に向けた負のメニスカスレンズからなる第11レンズL<sub>11</sub>および両凸レンズからなる第12レンズL<sub>12</sub>の接合レンズからなる。

【0039】また、第2bレンズ群G<sub>2b</sub>は、バックフォーカス調整群であって、凹面を結像面側に向けた負のメニスカスレンズからなる第13レンズL<sub>13</sub>および強い曲率の面を物体側に向けた両凸レンズからなる第14

レンズ $L_{1-4}$ の接合レンズ、ならびに強い曲率の面を物体側に向けた両凸レンズからなる第15レンズ $L_{1-5}$ からなる。

【0040】この実施例1に係る撮像レンズの各レンズ面の曲率半径 $R$  (mm)、各レンズの中心厚および各レンズ間の空気間隔 $D$  (mm)、各レンズの $d$ 線における

面 No.	R	D	N <sub>d</sub>	V <sub>d</sub>
1	46.86	2.01	1.83480	42.7
2	28.08	6.11		
3	95.63	1.90	1.80400	46.6
4	38.07	3.77		
5	-21696.15	1.80	1.80609	40.9
6	80.23	4.81		
7	-82.30	5.05	1.80439	39.6
8	-34.28	6.67		
9	445.23	1.69	1.49700	81.5*
10	35.70	12.10		
11	741.58	8.08	1.54814	45.8
12	-16.76	2.13	1.49700	81.5*
13	-70.68	20.76		
14	-29.27	1.50	1.83480	42.7
15	20.48	6.18	1.67270	32.1
16	-40.17	8.58		
17	∞	23.21	(開口絞り)	
18	81.82	6.95	1.48749	70.2
19	-48.88	0.47		
20	193.49	1.88	1.88299	40.7
21	37.07	6.93	1.49700	81.5*
22	-97.35	0.98		
23	84.52	1.90	1.88299	40.7
24	35.13	6.33	1.49700	81.5*
25	-115.53	0.12		
26	36.88	5.60	1.49700	81.5*
27	-222.20	5.00		
28	∞	33.00	1.60859	46.4
29	∞	13.20	1.51680	64.1

f=8.28, Bf=39.71, Fno 1.44

(1)式に係る  $f_n/f_{1b} = 0.09$

(2)式に係る  $d_n/dt = -0.0000061$  (該当するレンズに\*が付されている。)

【0042】なお、実施例1における、全系の焦点距離 $f$  (mm)、バックフォーカス $Bf$  (mm) および $F$ ナンバ $F$ no.、ならびに条件式(1)および条件式(2)に係る値を表1の下段に示す。表1に示すように条件式(1)、(2)はともに満足されている。ここで、実施例1において異常分散性のガラス材料からなるレンズは、負の第5レンズ $L_{1-5}$ 、負の第7レンズ $L_7$ 、正の第12レンズ $L_{1-2}$ 、正の第14レンズ $L_{1-4}$ および正の第15レンズ $L_{1-5}$ である。

【0043】また、実施例1の前玉有効径は約38.4mmであり広角レンズのコンパクト化を図ることができる。

【0044】さらに、図2は無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例1における諸収差(球面収

差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差)を示す収差図である。図2から明らかのように、実施例1の撮像レンズは諸収差が良好なものとされている。

【0041】

【表1】

差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差)を示す収差図である。図2から明らかのように、実施例1の撮像レンズは諸収差が良好なものとされている。

【0045】<実施例2>実施例2に係る撮像レンズの構成および作用は実施例1とほぼ同様であるが、主として、第1aレンズ群 $G_{1-a}$ の物体側から3番目のレンズである第3レンズ $L_3$ が強い曲率の面を結像面側に向けた負のメニスカスレンズからなり、第1bレンズ群 $G_{1-b}$ の物体側から1番目のレンズである第5レンズ $L_5$ が凹面を結像面側に向けた負のメニスカスレンズからなり、第1bレンズ群 $G_{1-b}$ の物体側から2番目のレンズである第6レンズ $L_6$ が結像面側に凸面を向けた正の

メニスカスレンズからなる点で異なっている。

【0046】この実施例2に係る撮像レンズの各レンズ面の曲率半径R (mm)、各レンズの中心厚および各レンズ間の空気間隔D (mm)、各レンズのd線における

面 No.	R	D	N <sub>d</sub>	ν <sub>d</sub>
1	42.74	2.01	1.83480	42.7
2	25.95	6.24		
3	98.48	1.91	1.80400	46.8
4	34.93	4.04		
5	1581.61	1.80	1.80609	40.9
6	66.98	7.53		
7	-125.37	4.86	1.80439	38.8
8	-35.98	6.58		
9	164.54	1.70	1.49700	81.5*
10	29.37	6.51		
11	-4385.71	8.17	1.54814	45.8
12	-16.22	1.88	1.49700	81.5*
13	-115.13	24.70		
14	-30.36	1.80	1.83480	42.7
15	21.80	6.12	1.67270	32.1
16	-39.81	6.77		
17	∞	22.00	(開口絞り)	
18	81.13	8.35	1.48749	70.2
19	-47.34	0.64		
20	165.62	1.90	1.88299	40.7
21	35.11	7.13	1.49700	81.5*
22	-98.31	1.00		
23	89.92	1.80	1.88299	40.7
24	36.91	6.11	1.49700	81.5*
25	-123.20	0.12		
26	35.97	5.71	1.49700	81.5*
27	-221.23	5.00		
28	∞	33.00	1.60859	46.4
29	∞	13.20	1.51680	64.1

F=8.33, BF=39.72, Fno 1.44

(1)式に係る  $f_n/f_{1b} = 0.38$

(2)式に係る  $d_n/d_t = -0.0000061$  (該当するレンズに\*が付されている。)

【0048】なお、実施例2における、全系の焦点距離f' (mm)、バックフォーカスB f' (mm) およびFナンバF no. ならびに条件式(1)および条件式(2)に係る値を表2の下段に示す。表2に示すように条件式(1)、(2)はともに満足されている。ここで、実施例2において異常分散性のガラス材料からなるレンズは、負の第5レンズL<sub>5</sub>、負の第7レンズL<sub>7</sub>、正の第12レンズL<sub>12</sub>、正の第14レンズL<sub>14</sub>および正の第15レンズL<sub>15</sub>である。

【0049】また、実施例2の前玉有効径は約38.4mmであり広角レンズのコンパクト化を図ることができる。

【0050】さらに、図3は無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例2における諸収差(球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差)を示す収差図である。図3から明らかなように、実

る、屈折率Nおよびアッペ数νの値は表2に示すようになっている。

【0047】

【表2】

施例2の撮像レンズは諸収差が良好なものとされている。

【0051】  
実施例3>実施例3に係る撮像レンズの構成および作用は実施例1とほぼ同様であるが、主として、第1aレンズ群G<sub>1a</sub>の物体側から3番目のレンズである第3レンズL<sub>3</sub>が凹面を結像面側に向けた負のメニスカスレンズからなり、第1bレンズ群G<sub>1b</sub>の物体側から2番目のレンズである第6レンズL<sub>6</sub>が結像面側に凸面を向けた正のメニスカスレンズからなる点で異なる。

【0052】この実施例3に係る撮像レンズの各レンズ面の曲率半径R (mm)、各レンズの中心厚および各レンズ間の空気間隔D (mm)、各レンズのd線における、屈折率Nおよびアッペ数νの値は表3に示すようになっている。

【0053】

【表3】

面No.	R	D	N <sub>d</sub>	ν <sub>d</sub>
1	53.25	2.00	1.83480	42.1
2	26.95	5.33		
3	71.99	1.90	1.80400	46.6
4	39.18	3.75		
5	2099.74	1.80	1.80309	40.9
6	84.48	4.19		
7	103.98	4.81	1.80439	39.6
8	-37.24	7.00		
9	-558.12	2.09	1.49700	81.5*
10	29.60	8.78		
11	-335.02	7.55	1.54814	45.8
12	-18.11	1.57	1.49700	81.5*
13	-79.17	23.87		
14	-31.17	1.87	1.83480	42.7
15	22.37	8.26	1.67270	32.1
16	-34.98	8.16		
17	∞	23.31	(開口絞り)	
18	79.98	8.72	1.48749	70.2
19	-49.51	0.86		
20	207.36	1.90	1.88299	40.7
21	35.63	7.07	1.49700	81.5*
22	-96.13	1.00		
23	103.08	1.90	1.88299	40.7
24	38.77	6.08	1.49700	81.5*
25	-104.45	0.12		
26	35.85	5.90	1.49700	81.5*
27	-234.14	5.00		
28	∞	33.00	1.60859	46.4
29	∞	13.20	1.51680	64.1

f=8.49, Bf=39.57, Fno 1.44

(1)式に係る  $f_n/f_{1b} = 0.43$ (2)式に係る  $d_n/dt = -0.0000061$  (該当するレンズに\*が付されている。)

【0054】なお、実施例3における、全系の焦点距離  $f$  (mm)、バックフォーカス  $Bf$  (mm) および Fナンバ Fno、ならびに条件式(1)および条件式(2)に係る値を表3の下段に示す。表3に示すように条件式(1)、(2)はともに満足されている。ここで、実施例3において異常分散性のガラス材料からなるレンズは、負の第5レンズ  $L_5$ 、負の第7レンズ  $L_7$ 、正の第12レンズ  $L_{12}$ 、正の第14レンズ  $L_{14}$  および正の第15レンズ  $L_{15}$  である。

【0055】また、実施例3の前玉有効径は約38.4mm であり広角レンズのコンパクト化を図ることができる。

【0056】さらに、図4は無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例3における諸収差(球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差)を示す収差図である。図4から明らかなように、実

施例3の撮像レンズは諸収差が良好なものとされている。

【0057】<実施例4>実施例4に係る撮像レンズの構成および作用は実施例1とほぼ同様であるが、主として、第1aレンズ群  $G_{1a}$  が5枚レンズ構成とされ、最も物体側から4枚のレンズ  $L_1 \sim L_4$  が負レンズとされ、それに続く1枚のレンズ  $L_5$  が正レンズとされている点等において異なっている。

【0058】この実施例4に係る撮像レンズの各レンズ面の曲率半径  $R$  (mm)、各レンズの中心厚および各レンズ間の空気間隔  $D$  (mm)、各レンズのd線における、屈折率  $N$  およびアッペ数  $\nu$  の値は表4に示すようになっている。

【0059】

【表4】

面 No.	R	D	N <sub>d</sub>	ν <sub>d</sub>
1	42.98	2.00	1.83480	42.7
2	24.85	5.31		
3	107.63	1.90	1.80400	46.8
4	39.17	3.03		
5	218.66	1.80	1.80099	35.0
6	88.38	2.23		
7	-215.81	1.80	1.80609	40.9
8	120.99	3.80		
9	-195.99	5.33	1.80439	39.6
10	-33.87	5.61		
11	-1228.63	1.70	1.49700	81.5*
12	27.92	11.00		
13	175.03	7.95	1.540/2	47.2
14	-16.07	1.50	1.49700	81.5*
15	-111.25	28.71		
16	-32.69	1.44	1.83480	42.7
17	23.54	4.81	1.86680	33.0
18	-35.87	4.69		
19	∞	22.67	(開口絞り)	
20	73.81	7.40	1.48748	70.2
21	44.44	0.17		
22	200.77	1.30	1.88299	40.7
23	31.11	7.60	1.49700	81.5*
24	-111.57	0.95		
25	90.56	1.30	1.88299	40.7
26	41.82	5.75	1.49700	81.5*
27	-138.61	0.12		
28	37.28	6.03	1.49700	81.5*
29	-154.08	5.00		
30	∞	33.00	1.60859	46.4
31	∞	13.2	1.51680	64.1

f=8.29, Bf=39.22, Fno 1.44

(1)式に係る  $f_n / f_{1b} = 0.29$ (2)式に係る  $d_n / dt = -0.0000061$  (該当するレンズに\*が付されている。)

【0060】なお、実施例4における、全系の焦点距離f<sub>1</sub> (mm)、バックフォーカスBf<sub>1</sub> (mm)およびFナンバFno、ならびに条件式(1)および条件式(2)に係る値を表4の下段に示す。表4に示すように条件式(1)、(2)はともに満足されている。ここで、実施例4において異常分散性のガラス材料からなるレンズは、負の第6レンズL<sub>6</sub>、負の第8レンズL<sub>8</sub>、正の第13レンズL<sub>13</sub>、正の第15レンズL<sub>15</sub>および正の第16レンズL<sub>16</sub>である。

【0061】また、実施例4の前玉有効径はφ36.6mmであり広角レンズのコンパクト化を図ることができる。

【0062】さらに、図5は無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例4における諸収差(球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差)を示す収差図である。図5から明らかのように、実施例4の撮像レンズは諸収差が良好なものとされている。

【0063】なお、本発明の撮像レンズとしては、上記実施例のものに限られるものではなく種々の態様の変更が可能であり、例えば各レンズ群を構成するレンズの形状、およびレンズの枚数は適宜選択し得る。また、本発明の撮像装置としても、前述したテレビ放送用撮像カメラの他、種々の撮像装置に適用可能である。

【0064】

【発明の効果】以上説明したように本発明の撮像レンズおよび撮像装置によれば、第1レンズ群を、物体側から複数枚の負レンズと結像面側に凸面を向けた1枚の正メニスカスレンズをこの順に配列するように構成しているため、光線軌跡を結像面側からみた場合、該正レンズによって一旦絞り込まれ、次に複数枚の負レンズによって大きく発散せしめられる状態となるため、前玉有効径を小さなものとしつつ広画角化を達成することができ、レンズ系全体のコンパクト化を達成することができる。

【0065】また、この撮像レンズは、無限遠物点から

至近物点にフォーカシングする際には、第1群G<sub>1</sub>の単独負レンズのみを光軸に沿って物体側に移動させて行なうインナーフォーカスタイルとすることで、駆動力が小さくてすみ、フォーカシングを行うためのメカ的機構が簡易となり、製造コストも廉価となる。また、フォーカシングを行なう際に、物体距離の変化に伴なう像面特性が向上し、フォーカシングに伴なう画角変動を抑制することが可能となる。

【0066】また、第2レンズ群G<sub>2</sub>中に少なくとも1枚の異常分散性ガラスからなる正レンズを含むとともに、第1レンズ群G<sub>1</sub>中に、異常分散性を表す所定の条件式を満足する負レンズを少なくとも1枚含むように構成することで、第2レンズ群G<sub>2</sub>中の異常分散性ガラスからなる正レンズにおいて生じる、温度変化に伴うバックフォーカスの変化を相殺することができるので、温度変化に伴うバックフォーカスの変化量を大きくすることなく色収差を良好に補正することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例1に係る撮像レンズの構成図

【図2】無限遠および至近にフォーカス調整した場合の

実施例1における諸収差（球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差）を示す収差図

【図3】無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例2における諸収差（球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差）を示す収差図

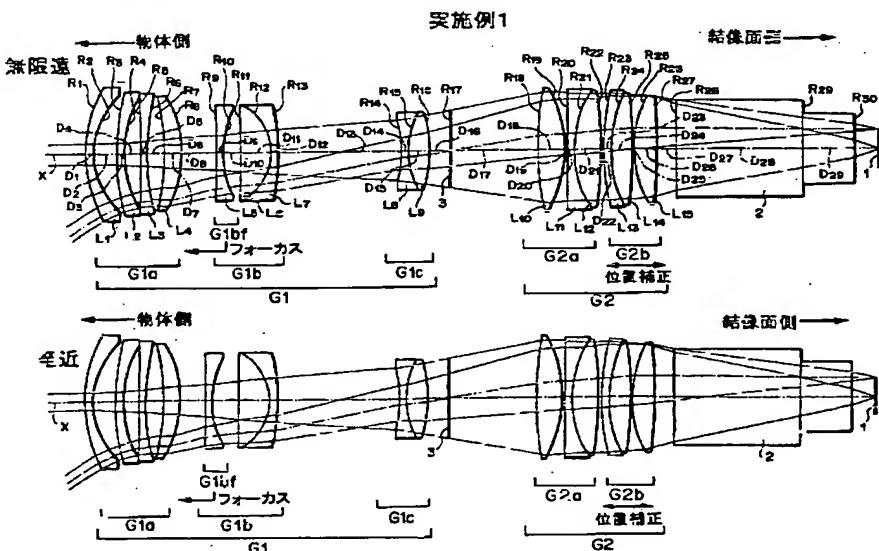
【図4】無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例3における諸収差（球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差）を示す収差図

【図5】無限遠および至近にフォーカス調整した場合の実施例4における諸収差（球面収差、非点収差、ディストーション、倍率色収差、コマ収差）を示す収差図

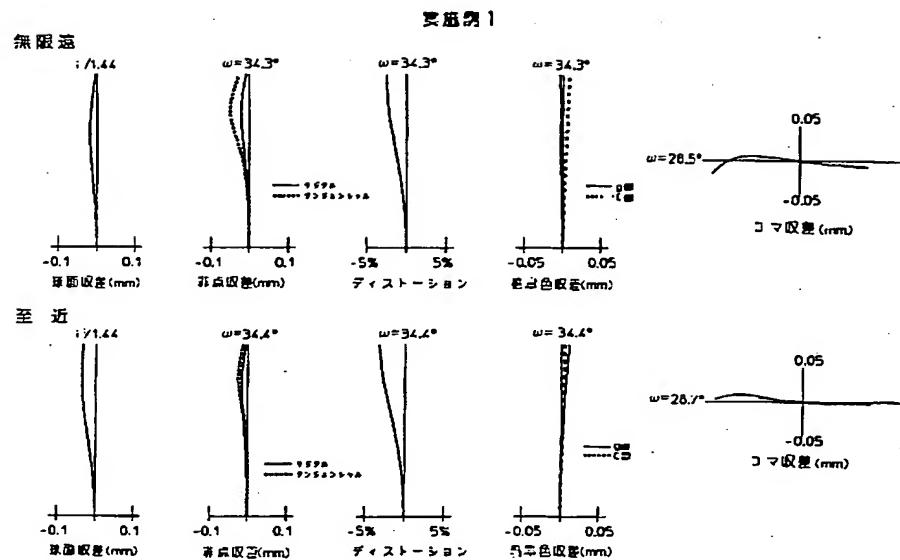
【符号の説明】

$L_1 \sim L_{16}$	レンズ
$R_1 \sim R_{32}$	レンズ等の面の曲率半径
$D_1 \sim D_{31}$	レンズ等の面間隔（レンズ厚）
X	光軸
1	結像面
2	3色分解光学系
3	絞り

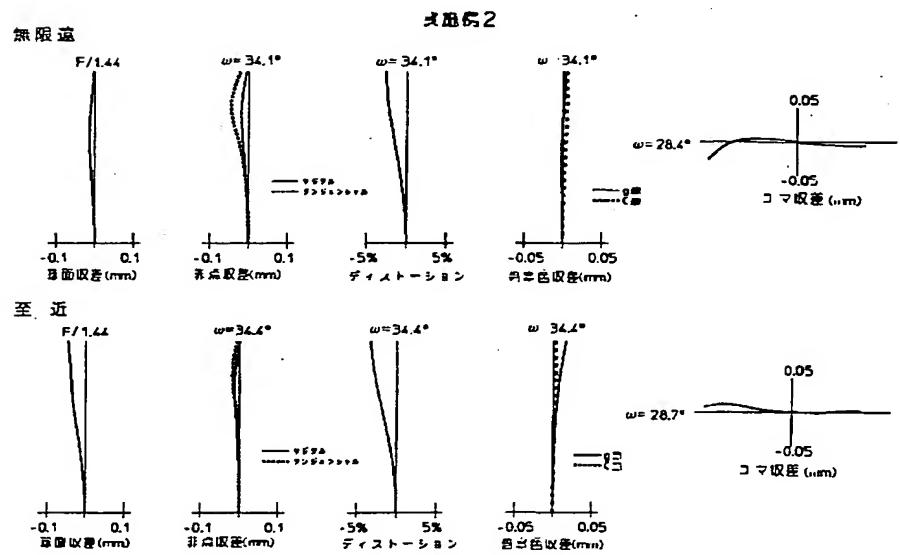
【図1】



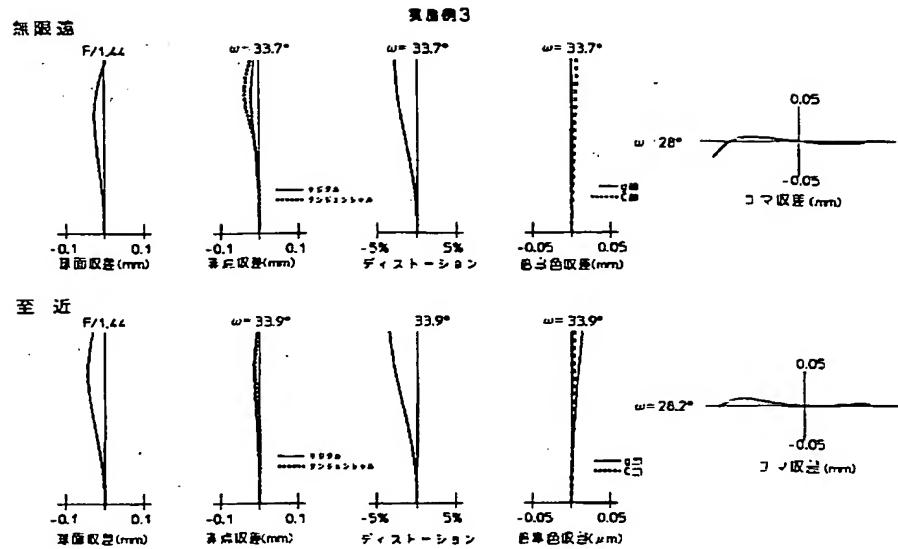
【図2】



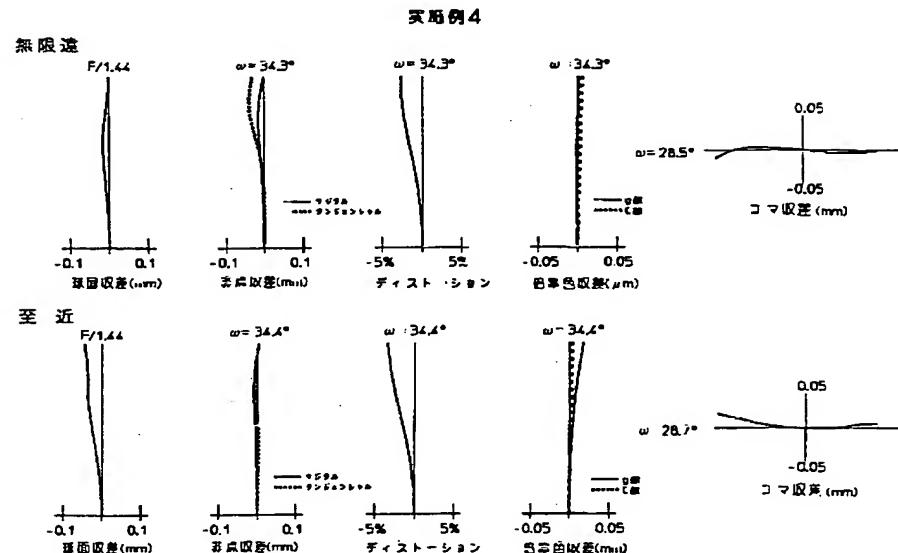
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

F ターム(参考) 2H087 KA03 LA03 MA07 NA02 NA08  
 NA09 NA14 PA11 PA16 PB15  
 QA02 QA07 QA17 QA22 QA26  
 QA34 QA41 QA46 RA32 RA41  
 RA43 UA06

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record.**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**